



**日本共産党・そねはじめレポート**  
**とうきょう民報おりにこみ版**  
 2011年 11月30日発行 第 23 号

そねはじめ事務所  
 114-0032  
 北区中十条2-11-6  
 Tel: 3907-1135  
 Fax: 3906-3225

# 大阪を橋下・維新の会独裁の拠点にはさせない！ 憲法と民主主義を守るたたかいはこれから



## ●思い切って「民主主義を守る」一点で共同

大阪市長と府知事選挙では“独裁を許さない”一点で共同する立場から、日本共産党推薦候補が立候補を辞退して平松市長を自主応援しましたが、残念ながら橋下前知事と「大阪維新の会」に惜敗しました。

今後、橋下人気が続いている間に、大阪を独裁政治の拠点として、愛知・名古屋の「減税党」や石原都知事の「新党構想」と野合する危険など、さまざまな策動がくり広げられるでしょう。

それだけに今回、民主主義を守るために広がった共同の輪は、日本国憲法を旗印にした新たなたたかいの土台としてしっかり根づかせていかねばなりません。

## ●石原とのたたかいの教訓を生かして

私は10年余りの石原のトップダウン政治、とりわけ教育破壊とのたたかいで多くの教訓を学びました。

### 王子駅で朝の宣伝に立つ山崎たい子区議、そねはじめ前都議

大阪でも今攻撃の矢面に立たされているのは教師や公務員ですが、必ず生徒や住民に被害が及んでいきます。かつて都教委は、卒業式の「国歌斉唱」で生徒が不起立でも担任に処分攻撃をかけようとしてきました。すると「先生をいじめないで」と生徒が答辞で訴え、父母も署名に立ち上り、「教育に強制をもちこむな」というマスコミ・ジャーナリストの連帯も広がるなかで、ついに都教委も攻撃を手控えざるをえなくなりました。

## ●横暴な政治は破たんも早い

その後、石原知事の「新銀行」や「築地市場の豊洲移転」、「五輪招致」などの横暴なやり方は、都民世論をもとにした共産党都議団の追及でいずれも破綻し、知事のトップダウンは通用しなくなりつつあります。

石原氏以上に短絡的な橋下氏は、府知事時代から府民や中小企業、商店街への支援を切りすててきました。今までよりくらしに身近な大阪市で同じ手法をとれば、福祉や地域経済が大きく破壊されてしまうでしょう。

私は“橋下独裁政治”が石原都政より早くゆきづまり破たんする可能性が高いと思います。むしろ住民被害の拡大以前にいち早く暴走をくい止めるため全国からの連帯を訴えたいと思います。

都や区の独自測定を促進する契機の一つとなった5月末の共産党北区議団と父母の自主測定



## 北区基準の28倍でも「除染せず」 都立公園で毎時7.06 μsv 測定

都の環境局は都民と共産党の強い要請を受け、11月17日に都立の水元(葛飾)・篠崎(江戸川)・中川(足立)の3公園に限って空中放射線を測定しましたが、中川公園の地表で最高毎時7.06 μsv(北区の基準0.25の28倍)、水元公園でも4.28 μsvを検出しながら除染せず立ち入り禁止にただけでした。理由は「高さ1mでは1.0以下に下がり、国基準に届かなかった」というもの。

これが区立公園なら速やかに除染措置をとったはずですが。都の姿勢は「可能な限り子どもの被曝を防ぐ」より「意地でも除染したくない」のがホンネといわざるをえません。

矢ヶ崎克馬氏(琉球大)講演「外からよりさらに危険な体内被ばく対策を急げ」

## 来年中に政治を変え、抜本策を都・区・国政で

＊ ＊赤羽会館ホールに 200 名がぎっしり！

共産党北区議団主催で 3 回目の放射線問題の学習講演会が 11 月 23 日午後、赤羽会館大ホールで開かれ約 200 名が参加しました。講師は沖縄から駆けつけた琉球大名誉教授の矢ヶ崎克馬氏でした。

＊ ＊内部被ばく隠しは原爆から始まった

被爆者の認定訴訟に奮闘した矢ヶ崎氏は、内部被爆隠しの背景に、原爆投下した米軍が被爆者の実態を覆い隠し日本政府が追随してきた事実があることを告発。内部被爆は食物だけでなく放射能のちりを吸っても発症すること。放射線濃度はチェルノブイリ事故のあとソ連政府が「避難生活の権利を保障」したレベルが福島県全域に広がっていると指摘しました。

＊ ＊国民のいのち優先に政治を変えなければ打開できない

「来年中に国政を変え放射線対策を強化しなければ内部被爆は解決しない」との訴えを受け、そねはじめ前都議は「一瞬で亡くなった被爆者に比べ、我われにはまだ時間がある。命を守る放射線対策を求め連帯を広げよう」と呼びかけました。(写真は挨拶するそね前都議)



### 原発ゼロ署名 3830 筆 (北区分) を提出

## そねはじめ前都議が笠井亮・田村智子議員に手渡す



11月24日、国会に原発ゼロをめざす署名運動の代表が結集し、5万3千名あまりの署名を提出しました。

挨拶に立った田村智子参院議員は、「野田首相は急速に信頼を失い、与党議員からさえヤジが飛ぶ。共産党の私の TPP 反対質問には拍手がくる。来年は皆さんと総選挙をたたかう可能性が高くなっている」と激しい国会の動きを報告しました。笠井亮議員は憲法改悪の急速な動きと党の奮闘を訴えました。そねはじめ前都議は、北区内で集約した 3830 筆分の署名をしっかりと手渡しました。

### そねはじめ交友録<その十七>

#### 知恵と勇気で闘った定時制の生徒たち

「君たち私立なら退学ものだよ」。都の課長のおどしを直後の記者会見でバクロした定時制高校の〇さん。生徒の直訴を頑として受けない都教委の窓口で「私は卒業生なので」と交渉に成功。課長の前で録音の電源を切り安心してしゃべるのを別録音。後で私にペコちゃんみたいに舌を出しました。ついに都教委も「校長立会いなら」と現役生徒から定時制切りすて反対陳情を受けたのです。

このとき陳情した森さんは、都教委の冷酷な対応を 04 年 1 月の国連子どもの権利委員会に行って英語でスピーチ。委員会の各国代表が涙を流し、都教委を名指しで異

例の「定時制統廃合見直し勧告」を出したのです。この運動を明るく楽しく知恵と勇気でたたかい抜いた彼らに、私は若者の大きなエネルギーを感じました。(04 年 3 月の質問が曾根 HP の動画に)

残念ながらその後も若者を巡っては教育も雇用も結婚・出産もきびしい情勢が続いていますが、彼らは IT や携帯のネットを駆使して私たちの青年時代と様変わりのたたかいを展開しています。

国連から帰国して報告集会で訴える森さんを、カメラを忘れたのでスケッチしました。

